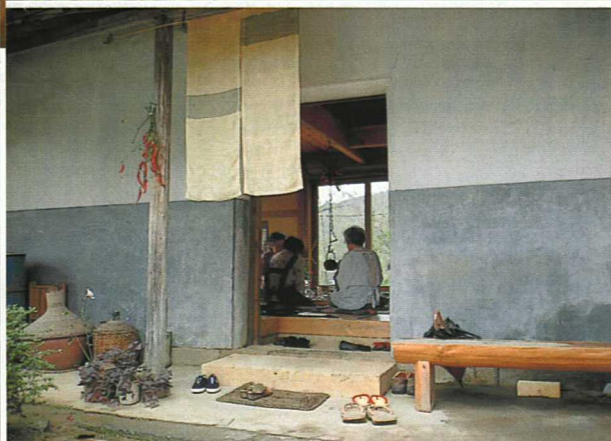


遠い親戚の家に遊びに来たようなほっと楽しい一夜

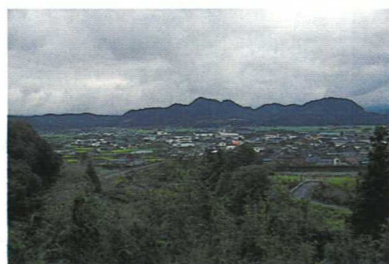
大分・安心院の農家に泊まる



舟板地区にある「舟板昔ばなしの家」は、築100年の隠居部屋を改造したもの。1階が食事処で2階が寝所。



「百年乃家ときえだ」の食事処。かつて280俵は取まったという米蔵を改造したもの。



安心院町の中心街。全国で唯一市町村名に“心”が入った町である。

農家を舞台に「安心院方式」と呼ばれる交流活動を展開している大分県安心院町。懐かしいふるさとに
出会う旅に出かけてみた。



大分自動車道日出ジャンクション～宇佐別府道路
安心院IC下車、役場まで5分。大分空港からはバスを別府で乗り換えて約3時間。



町内70カ所あまりに現存している鏝絵。写真は舟板地区にあるN0・43の「恵比須・大黒」。

鏝絵やワインの町として知られる安心院町。かつて過疎に悩む農村地帯だったこの町に、いまや全国から人が訪れる。官民一体で推進しているグリーン・ツーリズムによる成果で、牽引役が「安心院町グリーンツーリズム研究会」を母体とする農家民泊（通称・農泊）である。

普通、農家民泊は旅館業法や食品衛生法などの規制を受けるため、宿泊業の認可を得るには部屋の改築をはじめ多額の投資が必要となる。そこで安心院では、農村文化を体験への謝礼という形を取った。これがいわゆる「安心院方式」。自宅の空き部屋をそのまま利用できるため農家の参加も容易で、